

2016年(平成28年)4月3日(日曜日)



参加者の9割以上が景観を評価した増毛山道体験トレッキング(昨年9月)

9割超が「景観」評価

増毛山道 アンケート 約3割はリピーター

留萌振興局環境生活課は、昨年7月から10月にかけて8回行った増毛山道体験トレッキングの参加者を対象に実施したアンケート調査の結果をまとめた。参加者のうち、景観を評価している人が9割を超え、約3割がリピーターであることが分かった。

増毛山道は、江戸時代末期に開削された増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ全長32キロの山道。近年はササに埋もれて利用されていないが、振興局とNPO法人増毛山道の会(伊達東

会長)が22年度に増毛町別荘、岩尾間の約16キロを復元。23年度からは体験トレッキングを行っている。27年度の体験トレッキングは、従来の16キロフルコース、11キロミドルコース、5キロミニコースに加え、新たに復元した増毛町側の残り800メートルを含む21キロの雄冬山アタックコースの合わせて4コースで行われた。アンケートは、今後のトレッキングの参考にするために実施。参加者137人から回答を得た。

景観に関する質問では、

全コース参加者の46・5%が「全体的に良い」、33・9%が「比較的良い」、12・6%が「一部は良い」と回答しており、合わせると93%が景観を評価している。参加回数は「今回初めて」が71・7%、「2回目以上」が28・3%だった。参加者の自治体別では、札幌市が26・1%で最も多く、次いで留萌市、旭川市、増毛町、苫小牧市などと続く。

山道のアラス面については「普段歩けないルート」が27・9%で最多。「江戸時代の古道を歩ける」と話

史を感じる」などと続く一方、マイナス面は「ビューポイントが少ない」が32・8%で最も多く、「道に迷いそうな箇所がある」、「クマが怖い」などと続く。また、51・1%がトレッキングに参加するために増毛町や留萌市などに事前、あるいは事後に宿泊していることが分かった。

NPO法人増毛山道の会の小杉忠利事務局長は「リピーターが約3割もいることがうれしい。また、宿泊者が多いのでトレッキングによる経済効果も期待できる。今年は、夏から秋にかけて石狩市側の復元を予定しており、来年は完全復元した増毛山道を歩くトレッキングを実施したい」と話している。(原田学)